

平成22年度 成績概要書

研究課題コード： 421100 (道受託研究)

1. 研究成果

- 1) 研究成果名：平成22年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫
(予算課題名： 病害虫発生予察調査)
- 2) キーワード： 病害虫発生予察、注意すべき病害虫、新発生病害虫
- 3) 成果の要約： 平成22年度に実施した病害虫発生予察調査から、多発傾向にあった病害虫として21病害虫を示した。また、平成23年度の発生に特に注意すべき病害虫として7病害虫を示し注意を喚起した。さらに、平成22年度に新たに発生を認めた病害虫として20病害虫を示した。

2. 研究機関名

- 1) 担当機関・部・グループ・担当者名： 中央農試・病虫部・予察診断G・清水基滋、中央農試・病虫部・クリーン病害虫G、上川農試・研究部・生産環境G、道南農試・研究部・生産環境G、十勝農試・生産研究部・生産環境G、北見農試・生産研究部・生産環境G、花・野菜技術センター・研究部・生産環境G
- 2) 共同研究機関(協力機関)： (北海道農政部技術普及課、北海道農業研究センター)

3. 研究期間：平成22年度 (2010年度)

4. 研究概要

- 1) 研究の背景 病害虫の発生はその年の発生状況や気象経過のほかに、前年の発生状況の影響を受けるため、効率的な病害虫防除を実施するためにはそれら踏まえた全道的な情報が求められる。また、道内で未確認の病害虫が突発的に発生するため、対応が求められる。
- 2) 研究の目的 全道での病害虫発生状況を新発生病害虫も含めて記録し、これをもとに次年度に注意すべき病害虫を示して注意を喚起する。

5. 研究方法

- 1) 農作物有害動植物の発生状況
 - ・ねらい 農作物有害動植物の発生状況を記録する
 - ・試験項目等 18作物、86病害虫の発生状況を調査
- 2) 突発および新発生病害虫の診断試験および調査
 - ・ねらい 道内で新たに発生した病害虫を同定し記録する
 - ・試験項目等 発生調査、再現試験、同定試験

6. 研究の成果

- 1) 平成22年にやや多～多発した病害虫
 - (1) 水 稲：いもち病(葉いもち、穂いもち)、紋枯病、フタオビコヤガ
 - (2) 小 麦：赤かび病(秋まき小麦、春まき小麦(春まき))
 - (3) 大 豆：マメシンクイガ、食葉性鱗翅目幼虫
 - (4) 小 豆：食葉性鱗翅目幼虫
 - (5) てんさい：褐斑病、根腐病(黒根病を含む)、ヨトウガ(第1,2回)
 - (6) たまねぎ：白斑葉枯病、乾腐病、軟腐病
 - (7) ね ぎ：ネギアザミウマ
 - (8) にんじん：黒葉枯病
 - (9) だいこん：軟腐病、キスジトビハムシ
 - (10) はくさい：軟腐病
 - (11) り ん ご：モモシンクイガ、ハダニ類
- 2) 平成23年度に特に注意を要する病害虫
 - (1) 水稻のいもち病
 - (2) 水稻のイネドロオイムシ
 - (3) てんさいのシロオビノメイガ
 - (4) 菜豆のインゲンマメゾウムシ
 - (5) 野菜類のネギアザミウマ
 - (6) おうとうの灰星病
 - (7) 果樹の炭疽病

3) 新たに発生を認めた病害虫

- (1) 水稻のいもち病 (耐性菌の出現)
Pyricularia grisea (Cooke) Saccardo
- (2) 小麦の萎縮病 (新発生)
Soil-borne wheat mosaic virus
- (3) 大豆のミツモンキンウワバ (新寄主)
Ctenoplusia agnata (Staudinger)
- (4) さやえんどうのオオタバコガ (新寄主)
Helicoverpa armigera (Hübner)
- (5) かぼちゃの灰色かび病 (新発生)
Botrytis cinerea Persoon : Fries
- (6) いちごの乾腐病 (新発生)
Fusarium solani (Martius) Saccardo
- (7) だいこんのリゾクトニア病の葉腐症状 (新症状)
Rhizoctonia solani Kühn
- (8) はくさいのピシウム腐敗病 (新発生)
Pythium ultimum Trow var. *ultimum*
- (9) キャベツの株腐病 (新発生)
Rhizoctonia solani Kühn
- (10) こまつなのリゾクトニア病 (新発生)
Rhizoctonia solani Kühn
- (11) ねぎの萎縮病 (新発生)
Shallot yellow stripe virus
- (12) にらのべと病 (新称)
Peronospora destructor (Berkeley) Caspary
- (13) にらの白色疫病 (新発生)
Phytophthora porri Foister
- (14) レタスの苗立枯病 (新発生)
Rhizoctonia solani Kühn
- (15) ストックのモザイク病 (新発生、病原の追加)
Cucumber mosaic virus
- (16) ストックおよびアブラナ科野菜のハイマダラノメイガ (新寄主)
Hellula undalis (Fabricius)
- (17) りんごのスモモヒメシクイ (新寄主)
Grapholita dimorpha Komai
- (18) おうとうの炭疽病 (病原の追加)
Colletotrichum acutatum Simmonds ex Simmonds
- (19) おうとうの灰星病 (低感受性菌の出現)
Monilinia fructicola (Winter) Honey
- (20) エビガライチゴのイチゴウロコタマバエ (新寄主)
Lasioptera rubi Heeger

7. 成果の活用策

1) 成果の活用面と留意点

ここに記載した病害虫について、特に今後の発生動向に注意する。

2) 残された問題とその対応

- (1) 各種病害虫の要防除水準の設定
- (2) 簡易な調査方法とモニタリング手法の改善
- (3) 発生変動要因の解明と発生予察法の改善
- (4) 病害虫発生情報の収集および伝達の迅速化